野菜の元気をお届けします。

PICKLES®

New Traditional Taste

株式会社ピックルスコーポレーション関西

2023　年度　環境経営レポート

（対象期間 2023 年4月1日～　2024 年3月31日）

【京都府　　京都工場】

【広島県　　広島工場】

「野菜の元気をお届けします。」
ピックルスコーポレーショングループの基本テーマです。

日本全国に事業基盤を持つグループの一員として、近畿地方、中四国地方３，３００万人のお客様に「ご飯がススムキムチ」をはじめとする製品を日々お届けしています。

新鮮な野菜を独自の技術でスピーディに加工し、お客様にお届けする活動を、EA21の趣旨に則り「地球環境に配慮した経営」を行う事は、経営に不可欠な活動であるとともに企業の使命だと言う認識のもとに取り組んでまいりました。

「環境活動レポート」は一年間の集大成であり、継続する改善活動の一里塚です。
ピックルスコーポレーション関西の取り組みをご高覧の上ご指導いただきますようにお願い申し上げます。

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です
㈱環境省
エコアクション21
認証番号0013437

株式会社ピックルスコーポレーション関西
代表取締役社長　和田 幸成

作成日：　2024年5月31日

目　　次

項　　目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	13
これまでの環境活動の紹介	13

「ご飯がススム　キムチ」シリーズ

□ごあいさつ

経営方針

1．地球環境に配慮した企業経営
2．安全でおいしい製品を作るための品質管理
3．従業員のモラルアップと安全・健康を第一とした職場作り

環境経営方針

＜環境経営理念＞

当社の業である、浅漬・キムチ・惣菜の製造及び販売等において、「地球環境に配慮した企業経営」とする経営方針のもと、従業員一人ひとりがコスト意識を持ち、省資源・省エネルギーの推進、廃棄物の削減、リサイクルの推進、契約農家の農薬使用による土壌汚染及び水質汚染の予防、地域の環境保全活動の実施などに積極的に取り組み、継続的な環境保全の向上に努める。

＜環境保全への行動指針＞

１．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

２．創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。

３．廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制につとめ、食品リサイクル率の維持向上に努めます。

４．適正な利用により電気使用量・水使用量の削減に努めます。

５．洗浄剤や殺菌剤など薬品物の適正管理に努めます。

６．安心で安全な商品の配送効率を考慮しタイムリーにお客様にお届けします。

７．地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日： 2020年7月1日
改定日： 2022年2月1日

代表取締役社長　**和田 幸成**

□組織の概要

更新日： 2024年5月1日

（１） 名称及び代表者名
株式会社ピックルスコーポレーション関西
代表取締役社長　和田 幸成

（２） 所在地
本社・京都工場　京都府乙訓郡大山崎町大山崎鏡田3-100
京都府乙訓郡大山崎町大山崎鏡田3-100
広島工場　広島県府中市高木町64-2

（３） 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	京都工場課長	村瀬遵規	TEL：075-956-8889
担当者	京都工場係長	塩田真紀	TEL：075-956-8889
	広島工場課長	檀田拓志	TEL：0847-47-1117

（４） 事業内容
漬物・惣菜の製造

（５） 事業の規模
売上高　37 億円

	本社・京都工場	広島工場	合計
従業員　名	228 名	238 名	466名
延べ床面積　㎡	2,550 ㎡	2,577 ㎡	5,127㎡

（６） 事業年度　4 月 1 日 ～ 3 月 31 日

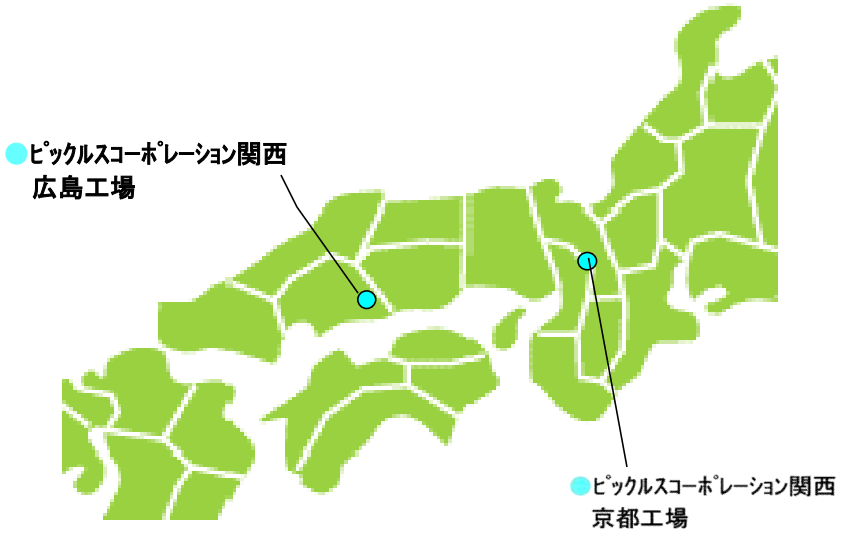
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：　株式会社ピックルスコーポレーション関西
対象事業所：　本社・京都工場
広島工場

対象外：　なし
活動：　漬物・惣菜の製造

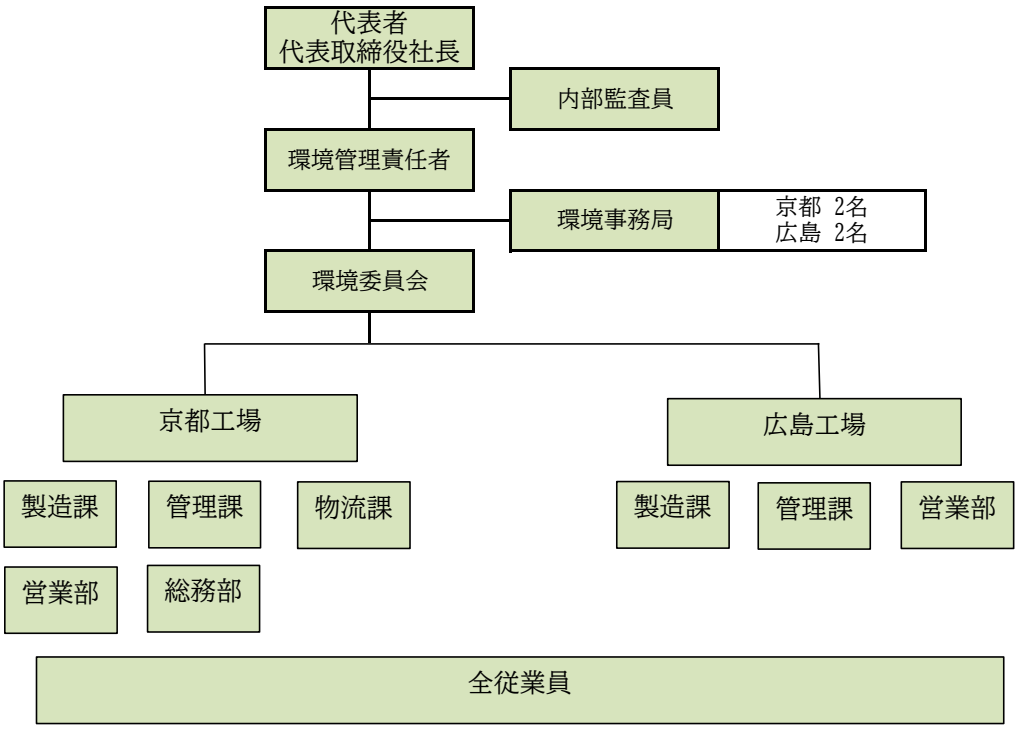
□事業や製品（商品）の紹介

事業内容：　あさづけ・キムチ・惣菜の製造及び販売、漬物の仕入及び販売
紹介　：　京都府大山崎に位置する京都工場、中四国地区の中心に位置する広島県府中市の広島工場の2工場により、関西地区及び中四国地区を中心とした、スーパーマーケット、生協向けにあさづけ・キムチ・惣菜を製造しています。



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日： 2023年5月1日



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
環境委員会	・環境経営計画の審議
	・環境活動実績の確認・評価
部門長 工場長	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
	・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
	・試行・訓練を実施、記録の作成
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画
	・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項　目	単位	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	1,370,252	1,317,628
廃棄物排出量			
一般廃棄物排出量	t	109	77
産業廃棄物排出量	t	1,412	1,234
食品廃棄物			
発生量	t	1,772	1,019
発生抑制量			
再生利用量	t	1,063	611
熱回収量			
減量量	t	709	408
再生利用以外の量			
廃棄物処理量			
食品再資源化実施率	%	100%	100%
水使用量	㎥	117,527	139,533

※二酸化炭素排出係数　京都工場　0.334 kg-CO_2/kWh 関西電力の2018年度調整後排出係数
広島工場　0.636 kg-CO_2/kWh 中国電力の2018年度調整後排出係数

□環境経営目標及びその実績

○工場全体評価

	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
二酸化炭素排出量削減	電力による二酸化炭素の削減	売価生産高原単位kg-CO2/百万円	364.0	360.4	99%	311.2	○	308.08	305.00
	LPGによる二酸化炭素の削減	売価生産高原単位kg-CO2/百万円	26.1	25.8	99%	24.9	○	24.66	24.42
廃棄物排出量削減	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	削減%	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	一般廃棄物の削減	t	97,812	96,834	99%	77,250	○	76,478	75,713
	混合物(廃プラ金属)の削減	t	47.3	46.8	99%	51.4	×	50.87	50.36
	削減項目	単位	2023年度自主目標			2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	%	95%			100%	○	100%	100%
水使用量削減	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	削減%	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	水使用量の削減	百㎥	1331.6	1318.3	99%	1395.3	×	1381.38	1367.56
化学物質適正管理	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	削減%	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	化学物質の適正管理	-	-	従業員教育	-	-	-	従業員教育	従業員教育

○京都工場

	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
二酸化炭素排出量削減	電力による二酸化炭素の削減	売価生産高原単位 kg－CO2/百万円	202.4	200.4	99%	182.3	○	180.46	178.65
	LPGによる二酸化炭素の削減	売価生産高原単位 kg－CO2/百万円	15.5	15.4	99%	14.9	○	14.74	14.59
廃棄物排出量削減	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	一般廃棄物の削減	t	97,780	96,802	99%	77,220	○	76,448	75,683
	混合物(廃プラ金属)の削減	t	6.5	6.4	99%	11.0	×	10.89	10.78
	削減項目	単位	2023年度自主目標		2023年度実績		評価	2024年度目標	2025年度目標
	食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	%	95%		100%		○	100%	100%
水使用量削減	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	水使用量の削減	百㎥	653.8	647.2	99%	670.2	×	663.51	656.87
化学物質適正管理	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	化学物質の適正管理	-	-	従業員教育	-	-	-	従業員教育	従業員教育

○広島工場

	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
二酸化炭素排出量削減	電力による二酸化炭素の削減	売価生産高原単位 kg－CO2/百万円	576.7	570.9	99%	489.0	○	484.07	479.23
	LPGによる二酸化炭素の削減	売価生産高原単位 kg－CO2/百万円	40.0	39.6	99%	37.0	○	36.61	36.25
廃棄物排出量削減	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	一般廃棄物の削減	t	31.9	31.6	99%	30.1	○	29.80	29.51
	廃プラスチックの削減	t	40.8	40.4	99%	40.4	×	39.98	39.58
	削減項目	単位	2023年度自主目標		2023年度実績		評価	2024年度目標	2025年度目標
	食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	%	95%		100%		○	100%	100%
水使用量削減	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	水使用量の削減	百㎥	677.8	671.0	99%	725.1	×	717.87	710.69
化学物質適正管理	削減項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	目標削減率	2023年度実績	評価	2024年度目標	2025年度目標
	化学物質の適正管理	-	-	従業員教育	-	-	-	従業員教育	従業員教育

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

○京都工場

削減項目	環境活動計画	計画の取組結果と評価	次年度の取組内容
電力による二酸化炭素の削減	・空調温度の適正化（事務所等：冷房２８℃　暖房２０℃） ・不要照明の消灯 ・仕事の効率化による定時退社の実施 ・LED照明への切り替え ・機械非稼働時の電源オフ ・扉の開閉管理（室温管理）	前年比95%と電力使用量を大幅に減らすことが出来た。閑散期では前年比を上回ったものの、1年を通して目標を達成することが出来た。 夏季のデマンド監視や、1年を通しての工場の稼働効率を高めて早く帰ろう運動が非常に効果的であったのか、満足いく結果が得られた。	来年も引き続き工場稼働時間の短縮を目指し、8月のデマンド監視を厳しくして節電の意識を高めていきたい。閑散期の売上高原単位評価についても目標を達成できるように声掛けを行いたい。
LPGによる二酸化炭素の削減	・ボイラ非稼働時の電源オフ ・ ・ ・ ・ ・	番重洗浄の時間を延ばしたことで昨年よりはガス使用量が増えてしまう結果となった。洗浄時間の調整やボイラーのタイマー見直しなどで、下期には使用量も抑えられた。一方で原単位評価では1年を通して前年より良い結果が得られた。稼働効率が向上し清掃も進んだため、十分な成果が表れている。	効率の向上には番重洗浄機の修理など、蒸気漏れが減ったことも大きく影響していると思うので、次年度も引き続き設備改善を頑張りたい。ボイラーの稼働効率が下がる冬季にかけて、ボイラーのタイマー監視をより厳しくしていきたい。
自動車燃料による二酸化炭素の削減	・アイドリングストップ ・エリア別営業活動の見直し ・出張等での効率的なルート確保	第4四半期に入り、ついに月次評価・累計評価ともに前年より下げることが出来た。営業社員の人数が減った事も大きな要因と思われるが、不要な荷物を下ろして燃費を上げたり、カーエアコンの調整を呼び掛けた効果もあると思われる。	月ごとでは営業活動の時期に左右されるので次年度も累計で減らすことを目標に活動を行う。
一般廃棄物の削減	・分別の徹底による廃棄物の資源化 ・手袋のムダ遣い防止 ・帳票見直しによる印刷物の削減 ・裏紙が活用できる紙を再利用するよう工夫している ・原料包材の削減、見直し ・生産工程の歩留まり向上 ・ペーパーレスシステムの導入	1月には保管書類の廃棄があったためすべての月で目標達成とはいかなかったが、一年を通して前年比79%と非常に大きな規模で一般廃棄物の量を削減することが出来た。長芋原料によるおがくずの影響は完全になくなった為、これからは一層意識してゴミの量を減らす工夫をしていく必要がある。	次年度は小ロット品を中心としたSKU削減にも締めて、不必要な帳票がなるべく少なくなるような取り組みを行いたい。 GoogleWorkｓpaceの導入もありペーパーレスやDX化を進めることが期待される。
混合物(廃プラ金属)の削減	・サイクルしやすい製品を優先的に購入 ・OA機器など可能な限り修理することで長期使用に努める ・分別の徹底による廃棄物の資源化 ・再資源化先の開拓	粗大ごみや事務所備品など、有価引き取りが難しいごみの廃棄が多い1年であった。廃プラと金属の買取は産廃回収前に必ず行い、なるべく多くのものを有価にできるよう工夫している。	備品の劣化は仕方ないが、故障や破損が多すぎるので備品の取り扱いを周知改善することも大切かもしれない。
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	・原材料発注量の精度アップ ・加工ロスの削減 ・在庫管理の強化による不良在庫削減 ・過剰混ぜ込みの防止、落下ロス削減 ・製造、発注ロットの適正化、カットロス低減	1年を通して売上単位当たりの廃棄物発生量がしっかり削減できており、繁忙期・閑散期に関わらず歩留まりの良い生産が出来るようになってきた。 閑散期で売り上げが落ちてもその分だけ食品廃棄物も減っており、より無駄のない加工ができていると考えられる。	長芋のようなロスの主要因がなくなったことで、これまでのように大きく削減することは難しいと思われる。 日々の細かい工夫によって歩留まり向上を目指したい。
水使用量の削減	・節水シールの貼り付けとポスター掲示 ・清掃時の流しっぱなしをしない・手元コック設置 ・流量計の設置、流量の管理 ・現場を汚さないための対策	ほとんどの月で前年に比べ水使用量を抑えることができた。節水コックや水量計の効果が継続的に出ていると思われる。 水使用量の異変に気づけたことで大きなトラブルにも早急な対処が出来たので確認作業の大切さを再認識できた。	井水を利用する京都工場にとって水使用量の削減は資源を利用するための重要な課題となっている。 作業管理的な水使用量の削減だけでなく、根本的に水を使わない仕組みに出来る箇所を模索していきたい。
化学物質の適正管理	・リスクアセスメントの実施・施錠管理チェック ・有害性物質の表示の徹底（SDSの更新確認） ・従業員教育 ・代替物質の検討	SDS更新を毎年チェックするようにした。 施業管理物の追加。	GHSマークについての教育・確認を実施していく。
環境に配慮した製品・サービスへの取組	・ロングセラー商品の開発 ・日持ちする商品の開発 ・環境に配慮した包材の検討 ・顧客クレーム削減	未使用容器を業者へ返品できるように交渉し、今まで廃棄になっていた包材ロスがなくなった。ラベルの一部をライナレスラベルへ変更し、ラベル台紙の紙ごみが削減出来た。	粉末調味料のテストを行い、添加液の廃液削減に取り組む。 包材の見直しの継続を行う。

○広島工場

削減項目	環境活動計画	計画の取組結果と評価	次年度の取組内容
電力によるニ酸化炭素削減	・空調温度の適正化事務所や会議室での室内温度を 夏場:26℃～28℃　　冬場:22℃～24℃ ・使用終了機械の電源切 ・太陽光発電 ・照明の人感ｾﾝｻｰ化 ・冷蔵庫の開閉点検	太陽光設置の影響により達成 導入時から一年後が、日射量の影響か調べ、清掃を行う必要がある。	室外機や2階の屋上に遮熱塗装を実施し、熱伝導を抑えエアコン効率をあげる。
LPGによるニ酸化炭素削減	・作業終了後のボイラー停止 ・コンテナ洗浄へボイラーを使用する時期の設定	累計評価は全て達成している。 作業終了時の停止をしっかりと行う必要がある。	コンテナ洗浄機を２人で短時間の稼働にさせて、ボイラー稼働時間を減らす。 コンテナ洗浄時の排水熱を利用し、水温を上げ熱効率をよくする。
一般廃棄物の削減	・分別の見直し ・帳票見直しによる印刷物の削減 ・DocuWorksを使用し、ペーパーレス ・ｶﾐﾅｼの活用	昨年、次年度取組としていた「手洗い場のエアータオル使用」を実行したことで、量を大幅に減少することできた。他に削減できる部分を洗い出し、行動に移すことができるように対策を考える。	伝票レスを行いペパーレス化に努める。
廃プラスチックの削減	・包材発注量の精度アップ ・原料のﾋﾞﾆｰﾙ袋納品を段ボール納品へ変更検討 ・生産数量設定の精度アップ ・再資源化先の開拓	今年度の累計目標は、未達成。 再度、器具のステンレス化や生産ロスに対して取り組みを行う必要がある。 引き続き、硬質プラの有価での引取り先を探し、削減に努めなければならない。	硬質プラの有価での引き取り先を探す。 近くの工場でプラザルの変更を行い、ステンレス化に向けて取り組んでいく。
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	・原材料発注量の精度アップ ・加工ロスの削減 ・在庫管理の強化による不良在庫削減 ・ダイス：捨てるようなとこ 落下	原材料の在庫管理をしっかりと行えたことにより、食品廃棄物の発生を抑制できた。 また、トリミングの意識を高く持てたことにより、無駄な発生の抑制に繋げることができた。	発生量の削減の取り組みを行う。 食品廃棄物を乾燥させ減量化に取り組み。
水使用量の削減	・節水シールの貼り付けとポスター掲示 ・洗浄時の流しっぱなしをしない ・白菜洗浄機入れ替えによる流量計	白菜ライン洗浄機の入れ替えにより水の使用量が前年より増えてしまっている。掲示などにより、コックの閉め忘れによるオーバーフローは減ってはいるが、数値として前年度の使用数量を下回る月が無かった。	今年度の数値が洗浄機入れ替え後のベースとなる。前処理のパート従業員も巻き込んで取り組んでいきたい。洗浄機のコックに流量計を取り付け、流量の管理を視覚化することで、過剰な使用を防ぐ、目に見えて分かる仕組みを構築できるよう取り組んでいく。
化学物質の適正管理	・リスクアセスメントの実施・施錠管理チェック ・有害性物質の表示の徹底（SDSの更新確認） ・従業員教育 ・代替物質の検討	新たに導入した有害物質に対しても従業員教育の実施が出来ている。	引き続き従業員教育を行い、化学物質を適切に取り扱いを、労働災害を防ぐ。

□工場の取組紹介

○京都工場

◆教育と共有
毎月の環境委員会の場で月次の報告に加えて、環境に関わる教育を行うようにした。
それぞれの部門の活動と意見の共有の場に教育を加えることで、更なる改善活動に繋げていきたい。
また、各部署の担当者に自部署での取組について活動立案をしてもらった。
期末には報告もしてもらい効果的な活動は継続する、拡大するなど「全体で取り組む」体制を作ることができた。

◆電力の削減
エアリークカメラにて工場内でエアー漏れしている箇所を確認。
目視、音等で確認が出来なかった箇所の漏れを認知し、対応することができた。
（エアー漏れ6カ所　329,876円/年相当の改善）

○広島工場

◆電力の削減・・・太陽光パネルの設置

太陽光パネル（広島工場）

◆一般ごみの削減
コロナ化で飛散防止の為、ペーパータオルを使用しておりましたが、紫外線殺菌ができるエアータオルを使用し、
ペーパータオルを撤去することにより一般廃棄物の削減に繋がりました。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥、廃油等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁法	煮湯設備、洗浄設備
下水道法	除害施設
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業所

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
なお、違反、訴訟等も過去３年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

本年度は特にありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

●京都工場

緊急事態の想定：　火災の発生

■実施日：　2023/12/14

■実施場所　㈱ﾋﾟｯｸﾙｽｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ関西　京都工場

■参加者：　出勤従業員

■実施内容：　☑ 通報訓練☑　消火訓練☑　避難訓練
業務中に包装室での火災を想定した、避難訓練

■評価：

手順書の変更の必要性　☐ あり　☑ なし

・全体としては役割通り行動が出来た事は、評価できる。
・避難放送から避難完了まで２階事務所　2分　１階工場　7分と工場の避難に時間が掛ったので短縮が必要
・ベトナム語で館内放送の検討も必要。
・当日、出勤者全員の安否確認も同時に行い、目視だけでなくリストでの安否確認が出来るようにしていきた

■実施状況の様子

●広島工場

緊急事態の想定：　火災の発生

■実施日：　2024/1/17

■実施場所　㈱ﾋﾟｯｸﾙｽｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ関西　広島工場

■参加者：　出勤従業員

■実施内容：　☑ 通報訓練 ☑ 消火訓練 ☑ 避難訓練

業務中に包装室での火災を想定した、避難訓練

■評価：

手順書の変更の必要性　☐ あり　☑ なし

・放送から避難完了まで3分25秒、その後安否確認で2分28秒かかる。
・避難経路、消火器の位置の確認が出来た。
・初の午前に実施し、全員速やかに避難できた。
・訓練後の機械の動作確認も出来た。・指定避難場所の確認。

■実施状況の様子

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2024年6月23日

○京都工場
今期は、水使用量の目標に対して大幅な増加あり。原因としては、水の使用量の異常数値が報告されすぐに調査したが、地中の水道管の破損による水漏れで、破損場所の特定が遅れてしまった。工場設備の老朽化もあり他にも同様の事が起こりうる可能性があるので、しっかりと数字や設備の確認を行って対応や予防に努めてもらいたい。
また、電力は、物流の外部委託による効率化により工場終了時間が早くなり電力消費が抑えられた。さらなる電力削減を目指し、太陽光設置の検討も行い、ＣＯ２削減や経費削減を目指して欲しい。
○広島工場
水の使用量が増加しており、洗浄機設置が原因となっております。来期は、洗浄機の効率的な使用して、水の削減に取り組んで欲しい。

◎総括
各部署がエコアクションの活動目標を設定しての取り組みは評価できる。リーダー社員だけでなく、パート社員さん・アルバイト社員さんが積極的に参加できるような活動とするために、パート社員さん・アルバイト社員さんからも活動目標のアイデアを募集する等して、全社員が参加することで地球環境に貢献できる活動としてほしい。

環境経営方針	□ 変更なし	☑ 変更あり ○○
環境経営目標・計画	□ 変更なし	☑ 変更あり 実績を踏まえて見直すこと
実施体制他	☑ 変更なし	□ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

○地域の森林保全活動への参加
大山崎町地下水利用対策協議会での取り組みとして環境活動の一環として地域の森林におけるタケノコの蹴倒し、竹林の伐採に協力。
地域の森を守る会の植樹活動にも参加し、里山の環境維持に貢献している。

○クリーン活動の実施
2ケ月に一度、工場周辺のクリーン活動をおこなっている。

□編集後記

電気・LPGの削減は順調に行えているが、水の使用量が両工場とも増えてしまっている。生産が減っている中、水の使用量の増加は、排水にも影響があるので、次年度の課題となっている。エコアクション21の活動は、メンバー中心として定着してきているが、新しい社員も増えているので活動の幅を増やして行きたい。（村瀬遵規）